

桔梗紋物語 2015年
縦 90.9cm × 横 72.7cm
(画像提供 美術年鑑社)



作品介绍
明智光秀の妻 照子とその子どもたちを描いた作品です。照子が抱くのは幼き日のガラシヤです。
— 絵画内の句 —
桔梗花の ひめたるおもひ 惚びつつ
子らとともに 我が道を往く

内田青虹さんより
この作品には、照子夫人の姿を婦女の鑑として生きて往きたいという思いを込め描きました。
浪人中の夫 光秀との困窮生活の中で子どもたちを育てていく妻 照子の当時の苦労がしのばれ、自分自身の娘たちを育てた時代を思い出し、私自身の生きる道しるべになりました。



歴史人物画家 内田 青虹 さん
うちだ せいこう

歴史人物画家、日本画家。山口県生まれ。幼少より絵画に親しみ画家を目指す。父の葬儀の際に「一族が明智光秀の血脈である」と自身のルーツを教えられ、驚きと衝撃を受ける。以後、光秀の三女 玉子（細川ガラシヤ）のことが胸の奥にあった。画家としての記念すべき一作目は鎮魂の意も込めて描かれた「細川ガラシヤ」。その後は作品に描かれた人物にゆかりの地や人との縁が繋がりに、内田さんの作品は各地で收藏・公開されている。

【主な経歴】

- 昭和61年 新興美術展に「細川ガラシヤ」を出品。以後平成21年まで毎年出品
 - 平成2年 国際美術展カナダ展、パリ国際サロン、日本現代絵画代表作家展(パリ)に出品。90国際芸術文化賞受賞
 - 平成4年 新興展に出品。京都府知事賞受賞
 - 平成10年 新興展、東京都知事賞受賞
 - 平成14年 可児市文化創造センターに「時を超え 桔梗花ゆかし 可児の里(明智一族絵物語)」を寄贈
 - 元新興美術院参与
 - ・黒岩重吾著「女龍王」や産経新聞の挿絵など
- 【主な收藏先】**
赤間神宮、上智大学カトリックセンター、姫路文学館、
府天満宮、松陰神社、山口県立萩高校、明倫学舎など

可児市のご縁と不思議な出会い

明智光秀公の生誕地が可児市であることを知り、1992年に銀座で個展開催の折、「細川ガラシヤ」と「巴」の作品が産経新聞に大きく掲載され、それを一瞥になった「巴」ゆかりの御方がその生誕地である木曾の「義仲館」に作品を收藏されたことにはじまります。

これがきっかけとなり、長野県和田村(現長和町)の当時の文化財調査委員長を紹介され、ご挨拶に参りました。その数日前には可児市明智城址保存会の方々が和田村を訪問しておられ、私がガラシヤ像を描いた事情をその時お知りになりました。その後、明智光秀公第417回忌法要に招かれ、それが土岐明智一族との出会いの始まりとなり、文化創造センター開館時に作品を寄贈させていただきました。私はその時、「先祖に呼び寄せられたような思いがいたしました。その後は次々にご縁のある方々にお会いして、今では先祖の故郷に導かれたこと思い、大河ドラマ「麒麟がくる」まで、元気に生きて参りました。ことに心から感謝して、今後の可児市のご発展への祈りを込めて、明智二作品を寄贈させていただきました。

次代を担う若い方々にもぜひこの機会に日本の歴史上の人物たちに興味を持つと同時に、日本人の精神文化に誇りを持つていただきたいと存じます。

内田 青虹

内田さんの絵画作品と明智光秀肖像画(複製)を鑑賞

おうちでミュージアム



動画で今回の展示が楽しめます。文化財課職員の見学付き！ぜひご覧ください。



可児市 検索

明智光秀博覧会

今回、寄贈していただいた絵画作品2点と本徳寺所蔵の明智光秀肖像画の複製を展示しています。

場所 明智光秀博覧会 2020 in 可児市
(花フェスタ記念公園 花のミュージアム内)

展示期間 令和3年11月11日まで

※新型コロナウイルス感染症の影響で予定が変更となる場合があります。



明智光秀肖像画
(原資料：大阪府岸和田市本徳寺所蔵)



広報かに平成30年6月号

過去にも広報かにで掲載

今月号の表紙の絵に見覚えはありませんか？実は、大河ドラマ「麒麟がくる」の放送が決定した直後の広報かにの特集ページで掲載しました。
平成14年に描かれたこの絵は、その年に開館した文化創造センター・アーラへ寄贈され、レセプションホールに飾られています。4枚のキャンバスを連ねて描かれた縦171cm、横360cmの大作です。